

～ゆくさおさいじやしたもした～

かごしまの方言 講座 二

【別れのあいさつ表現】

またお会いしましょう、さようなら

●またごあんそ

薩摩・大隅

●まためっかりもーそー

熊本

●またうがみんしよーろ

奄美

【出迎えの表現】

ようこそいらつしやいました

●ゆくさ

おさいじやしたもした

薩摩・大隅

●よーこそ

おじやりもうした

熊本

●いもーりんしようれ

奄美

【お礼の表現】

ありがとうございます

●あいがともさげもした

薩摩・大隅

●ありがとござりもーした

熊本

●ありがたさまありようた

奄美

【会ったときのあいさつ表現】

おはようございます、こんにちは

●よか朝ごわんが

(おはようございます)

薩摩・大隅

●めっかりもーさん

(おはようございます、こんにちは)

熊本

●うがみんしよーら

(こんにちは)

奄美

注釈



薩摩・大隅 は薩摩・大隅地方、
熊本 は種子島・屋久島地方、
奄美 は奄美地方で使われている方言の一例であることを示しています。

その他(薩摩・大隅地方の方言の一例)

●どうか、おきばいやんせ
(どうか、がんばってください)

●じゃつど

(そうですね) 《相づちの言葉》

●ずんばいあつど

(たくさんあるよ)

●ちんがらつじやした

(さんざんでした)

●わつぜ うんまか

(とてもおいしい)

●うんだもしたん

《驚いたときに発する》

●なんちゅあならん

《非常に良い》

●ちえすといい

《前向きに一生懸命取り組むときのかけ声》

●けけけけ (貝を買いに来い)



「篤姫」キャンペーンオフィシャルキャラクター



かごしまの教え

三二辞典



〔語り継ぐかごしまの教え集〕より

泣 こかい

跳ぼかい

泣こよつか

ひつ跳べ

―跳べないとおじけて泣こ
うか、それとも跳ぼうか。
泣きべそをかくより、えいっ
と思いついて跳んでやれ。

●鹿児島のことわざ

過 ちを改るに、

自ら誤ったときへ

思ひ付かば、

夫れにて善し

―過ちを改めるにあたって
は、自分からあやまったとき
え思いついたら、それでよい。

●西郷南洲翁遺訓二二十七

負 けるな、嘘を言うな、

弱い者をいじめるな

―他に負けずにかんばれと自分自身に言い聞か
せながら努力せよ。だが、何よりも自分の心の中
にある怠け心、弱い心に負けてはならないという
自分自身への戒めを忘れるな。
そして、人間は嘘を言ってはいけない。嘘や偽
りは人間として最も恥ずかしいことなのだ。
また、相手の立場を思い、弱い立場にある人へ
の人間的な思いやりをしめしたまえ。

●鹿児島のことわざ

若 けうつの難儀は

買うてでんせえ

―若いうちの難儀は、買ってで
も進んでしなさい。苦難は必ずあ
なたを育てる。

●鹿児島のことわざ

語り継ぐ

かごしまの

教え集

少年少女へのメッセージ



古 への道を聞きても唱へても

わが行にせずばかひなし

―昔から伝わる立派な教えをいくら聞いても、またどれだ
け口先で唱えても、自分で実行しなければ何の役にも立た
ない。

●島津日新公「いろは歌」

花 なれいば匂い 枝ぶりやいらぬ

姿振りやいらぬ 人や心

―花ならば香りの高いものがよい。枝ぶりはどうでもよい。
人間も外見をいくら美しく飾り立てて誇張してみても、
心が豊かでなければ人間としての魅力はないのだ。

●奄美大島のことわざ

持 籠は持ち合い

世間は寄合き

―もっこは運ぶときは二人が心を合わせ、力を平均にして、
高さや速さなど、呼吸を合わせて運ばなければうまく運べ
ない。私たちの住む社会は、人と人との支え合いによって
動いている。人間らしく暮らしていくには、一人一人の心
を寄せ合い、助け合っていくことが大事である。

●種子島のことわざ

は かなくも明日の命を頼むかな

今日も今日もと学びをばせで

―世の中には、今日が用事があるから、今日は気分が悪い
からと言って大事な学問を怠り、明日はないかもしれぬ命
を頼みにしている人がいる。だが、今、この時こそが一番
大切なのだ。

●島津日新公「いろは歌」